

駒場

2007



東京大学大学院総合文化研究科
東京大学教養学部



KOMABA2007

GRADUATE SCHOOL OF ARTS AND SCIENCES
THE UNIVERSITY OF TOKYO, KOMABA

GRADUATE SCHOOL OF ARTS AND SCIENCES
THE UNIVERSITY OF TOKYO, KOMABA

[駒場]2007



表紙に使われている3枚のイチョウのロゴデザインは、
設立50周年を記念して、
東京大学大学院総合文化研究科・教養学部の新たなシンボルとして策定された。
東京大学のシンボルであるイチョウの葉を3枚重ねることにより、
学部前期(教養)・後期・大学院の三層にわたる教育の融合と、
世界と未来に向けた学問と人の限りない交流と創造をイメージしている。
制作は、(株)禅 石塚静夫氏。

表紙について

レオナルド・ダ・ヴィンチ《レダの頭部の習作》(複製)、駒場博物館蔵

(オリジナルは1504～1506年制作、ウインザー城王立図書館蔵)

ルネサンスの盛期を生きたレオナルド・ダ・ヴィンチ(1452～1519年)は、「万能人」と呼ばれる芸術家・思想家でしたが、絵画作品を「完成」させることの少ないことでも知られています。仕上りに至った作品は、《受胎告知》や《岩窟の聖母》、《モナ・リザ》など17点しかありません。その一方で夥しい数のスケッチやデッサンが残されています。それらを含む、科学技術の分野にまたがる思索の跡をとどめたノートは13,000ページにも及んでいます。

東京大学駒場博物館はレオナルド・ダ・ヴィンチの素描の複製画コレクションを収蔵しています。86点のパネルは、レオナルド生誕500年(1952年)を記念してユネスコによって制作され、世界各地を巡回したのちに駒場の地に落ち着いたものです。駒場博物館はこれまで数度に渡る収蔵品展でこの素描を公開してきましたが、2007年春に開いた特別展「創造の広場イタリア」でも展示を行いました。三部構成の展覧会の第二部「ルネサンスの創造の広場」において、ルネサンスの時代を代表する天才レオナルド・ダ・ヴィンチをとりあげたのです。なお同展覧会は、教養学部で2007年4月からイタリア語が新しく初修外国語に加えられたのを記念して企画されたものです。

表紙に載せた女性頭部の素描《レダの頭部の習作》は、レオナルドが晩年に描いたと伝えられる《レダと白鳥》のための習作デッサンと考えられています。完成作品は失われていますが、複数の習作がイギリスのウインザー城、ミラノのスフォルツァ城に保存されています。駒場博物館にも数パターンの複製がおさめられています。絵の題材は、スパルタの王妃レダと白鳥に化けたゼウスが交わり、ヘレネやカストルとポルックスらの子が生まれるというギリシャ神話のエピソードがもとになっています。

GRADUATE SCHOOL OF ARTS AND SCIENCES
THE UNIVERSITY OF TOKYO, KOMABA

[駒場]2007



東京大学大学院総合文化研究科
東京大学教養学部

【駒場】2007

東京大学大学院

総合文化研究科

東京大学教養学部

●目次

まえがき	7
I 2007年度における大学院総合文化研究科・教養学部	
1 総合文化研究科・教養学部の現状(研究科長から)	10
2 運営諮問会議(第2期第4回会議)	12
3 新カリキュラムの二年目・新しい進学振分け制度の実施	13
4 第9回東アジア四大学フォーラム・東京会議	15
5 駒場における教養教育開発の推進	17
6 学術俯瞰講義	22
7 科学技術インタープリター養成プログラム	23
8 生命科学構造化センター	25
9 複雑系生命システム研究センター	27
10 アメリカ太平洋地域研究センター(CPAS)	30
11 東アジア・リベラルアーツ・イニシアティブ(EALAI)	33
12 ドイツ・ヨーロッパ研究センター(DESK)	35
13 「人間の安全保障」プログラム(HSP)	37
14 共生のための国際哲学教育研究センター(UTCP)	40
15 心とことば—進化認知科学的展開	43
16 美術博物館	45
17 自然科学博物館	47
18 オープンキャンパス2007 駒場地区	49
19 第6回ホームカミングデー	52
20 社会連携への取り組み	54
21 駒場アクティブラーニングスタジオ(KALS)	57
22 キャンパスの整備	58
23 教養学部正門門扉の復元製作	61
II 大学院総合文化研究科・教養学部とはどのような組織か	
1 沿革—東大駒場	64
2 教育・研究上の特色—学際性と国際性	65
3 教育・研究組織の特色—三層構造	66
4 教員集団—多様多才な人材	68
5 意思決定の機構	69
6 各種委員会	71
7 予算	73
8 キャンパスの現状と将来計画	74
9 航空写真・建物配置図	76
10 事務組織	78
III 大学院総合文化研究科・教養学部における教育と研究	
1 前期課程	82
1.前期課程教育の特色	82
2.前期課程のカリキュラム	83
3.教養教育開発機構	88
2 後期課程	90
1.後期課程教育の特色	90
2.AIKOMプログラム—短期交換留学制度	91
3.超域文化科学科	94
4.地域文化研究学科	95
5.総合社会科学科	97
6.基礎科学科	98
7.広域科学科	100
8.生命・認知科学科	102
3 大学院	105
1.大学院教育の特色	105
2.言語情報科学専攻	105
3.超域文化科学専攻	108
4.地域文化研究専攻	110
5.国際社会科学専攻	112
6.広域科学専攻生命環境科学系	116
7.広域科学専攻関連基礎科学系	118
8.広域科学専攻広域システム科学系	120
9.「人間の安全保障」プログラム	122
IV 大学院総合文化研究科・教養学部では、誰がどのような教育・研究を行っているか	
凡例	126
専任教員	128
特任・客員教員	324
外国人教師	340
V 駒場の教育・研究・厚生施設	
1 図書館	344
2 アメリカ太平洋地域研究センター	348
3 情報教育棟 情報基盤センター情報メディア教育部門	349
4 駒場アクティブラーニングスタジオ(KALS)	352
5 駒場博物館 美術博物館 自然科学博物館	354
6 バイオルガン	357
7 スタインウェイピアノの設置とピアノ委員会の活動	358
8 SCS施設	360
9 共通技術室	361
10 RI実験施設	362
11 低温サブセンター	363
12 生命科学構造化センター	364
13 留学生相談室・駒場インターナショナルオフィス	366
14 学生相談所	368
15 進学情報センター	370
16 保健センター 駒場支所	372
17 ハラスメント相談所 駒場相談室	375
18 バリアフリー支援室駒場支所	376
19 駒場ファカルティハウス(国際学術交流会館)	378
20 男女共同参画支援施設	378
21 駒場コミュニケーション・プラザ	379
22 キャンパス・プラザ	381
23 柏蔭舎	383
24 三鷹国際学生宿舎	384
付属資料1	
2007(平成19)年度志願・合格・入学状況	388
2008(平成20)年度進学内定者数	389
定員の推移	390
2007(平成19)年度クラス編成表	391
研究生	393
留学生	394
付属資料2	
シンポジウム	396
講演会	404
学外からの評価	409
2007(平成19)年科学研究費補助金	410
2007(平成19)年科学研究費補助金	430
2007(平成19)年研究拠点形成費補助金	431
2007(平成19)年厚生労働科学研究費補助金	432
2007(平成19)年産業技術研究助成事業費助成金	432
2007(平成19)年寄附金	433
2007(平成19)年寄附金(数理科学研究科)	436
2007(平成19)年受託研究	437
2007(平成19)年受託研究(数理科学研究科)	439
2007(平成19)年共同研究	440
2007(平成19)年共同研究(数理科学研究科)	441
2007年度の役職者	442
教養学部の教員	444
名誉教授	454